

# 最新接着講座 (第17講)

J. Jpn. Soc. Colour Mater., 88 [6], 187-192 (2015)

## 国際標準化について (歴史, 活動状況, ~接着関連) ①

岩田立男\*, \*\*, \*\*\*, †

\*接着技術アドバイザー 静岡県浜松市中区布橋2-7-17 (〒432-8012)

\*\*NPO法人 接着剤・接着評価技術研究会 東京都新宿区百人町1-20-3バラードハイム703 (〒169-0073)

\*\*\*静岡大学工学部 静岡県浜松市中区城北3-5-1 (〒432-8561)

† Corresponding Author, E-mail: iwata128@sage.ocn.ne.jp

(2014年7月31日受付, 2014年9月11日受理)

### 要 旨

近年, ますます拡大しているビジネスのグローバル化にともない, 環境問題は地球レベルでの共生の対応が求められている。このような中で国際標準化機構 (ISO: International Organization for Standardization) は, 市場性重視, 価値ある規格, Optimum Globalization に努めている。接着関連の国際標準化は, ISO高分子接着剤委員会であるISO/TC 61/SC 11/WG5 (Plastics/Products/Polymeric adhesives) およびポリマーディスパージョンISO/TC 61/SC 9/WG 14 (Plastics/Thermo-Plastic materials/Polymer dispersions) において審議&決議されている。接着関連国際規格ISOの歴史と活動状況 (JIS含む) について, この約15年の変遷~昨年ISOTC61 (プラスチック) 中国/蘇州会議などを述べる。

キーワード: ISO, 接着剤試験規格, 耐久性, ポリマーディスパージョン, 最適グローバル化

### 1. はじめに

近年, ますます拡大しているビジネスのグローバル化にともない, 環境問題は地球レベルでの共生の対応が求められている (写真-1)。このような中で国際標準化機構 (ISO: International Organization for Standardization) は, 市場性重視, 価値ある規格, Optimum Globalizationに努めている。

接着関連の国際標準化は, ISO高分子接着剤委員会であるISO/TC 61/SC 11/WG5 (Plastics/Products/Polymeric adhesives) およびポリマーディスパージョンISO/TC 61/SC 9/WG 14 (Plastics/Thermo-Plastic materials/Polymer dispersions) において審議&決議されている。著者は, NPO法人 接着剤・接着評価技術研究会 (理事長 小野昌孝) および国際規格適正化調査研



写真-1 セラヤ(ラワン)森林が破壊され, オイルパームトゥリーへ (北ボルネオ/マレーシア, タワウ)



【氏名】 いわたりつお  
 【現職】 接着技術アドバイザー, NPO法人接着剤・接着評価技術研究会 会長, 静岡大学工学部 非常勤講師  
 【趣味】 旅行, テニス, 水泳, 映画観賞, ウォーキング  
 【経歴】 1968年静岡大学工学部工業化学科卒。2006年静岡大学大学院理工学研究科物質科学専攻博士後期課程, 博士(工学)学位取得。1968~2005年ヤマハ(株)主管技師(生産技術統括本部)。2006~2009年ヤマハ(株)接着技術アドバイザー(ピアノ事業部)。

究 (経済産業省委託研究/日本プラスチック工業連盟) から委嘱され, 日本代表エキスパートとして接着関連ISO国際会議に1999年以降~出席してきた (写真-2, 3)。



写真-2 2006.9横浜開催ISO/SC11/WG5 (高分子接着剤) 国際会議



写真-3 2009.10ローマ開催ISO/SC11/WG5 (高分子接着剤) 国際会議